

○第一部最優秀賞 青森県農協中央会会長賞

一人でがんばったお米とき

西白山台小学校（八戸市）

二年 栗津 彩恵（あわつ・さえ）

わたしは、ごはんが大好きです。たきたてのまっ白いほかほかのごはんです。朝、ごはんを食べていると、早く目がさめて、心があたたまります。

いつもは、ごはんをたいてくれるのは、お母さんだけれど、お母さんがうれしくなっほしいから自分でお米ときをしました。

まず、お米二合と水をかまに入れました。それから、かるく手でかきまぜます。その後、水をシンクにながしました。その時、お米がかまから出ないように、かまの出口を手でおさえます。すると、お母さんが、

「しんちようにやるんだよ。」

と、言ったので、その通りにゆっくりながしました。

つぎにお米をといでいきます。かまを左手でおさえて、右手でお米をとぎました。どこでといだかというのと、てのひらです。一周まわして、てのひらでジャツジャツという音を出してとぎました。その時お母さんからアドバイスをもらいました。それは、

「リズムよくとぐといいよ。」

と、教えてくれました。でも、手を回すのは大へんでした。回すのをわすれたり、お米がおもくてお米をとばしたりしっぱいしてしまいました。でも、あきらめませんでした。何回もリズムよくとぎました。

さい後に、水がとう明になるまで水をながして入れてをくりかえしました。さいしょはカルピスみたいに白かったけれど、とう明になっていきました。またお米をながさないようにしたけれど、少しながしてしまって、わたしは、「もったいないことをしたなあ。お米とお米を作ってくれた人にとってわるいことをしたなあ。」と、思いました。

お米ときは、思ったより大へんでした。でもお米を作っている人の方がもっと大へんなんだと思うので、お米を大じにとぎたいです。